

平成28年度第6回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 平成29年1月13日（金） 午前10時～11時45分
2. 開催会場 印西市文化ホール 多目的室
3. 出席者 粉川一郎委員長、植本崇委員、大和正明委員、安倉史典委員、玉井和幸委員、北村倫子委員、大野定俊委員、桑田佳雄委員、奥野不二子委員、志村はるみ委員（以上10名）
4. 事務局 飯塚参事、伊藤、杉山
5. 傍聴者 2名（定員5名）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 平成28年度企画提案型協働事業について（振り返り）
 - (2) その他
 - 3 その他
 - 4 閉会

7. 会議要旨

議題（1）平成28年度企画提案型協働事業について（振り返り）

《事務局説明》

資料1を基に、1年間の実施プロセスと審査結果を確認した。また、資料3を基に、審査方法の見直しについての事務局案を説明した。

《議長進行》

来年度の事業実施に向けた参考とすべく、各委員の意見を求めた。

《委員意見》

- ・1回目の審査を通過すれば2回目の審査は通過する確率が高いので、継続提案分のアイデア審査を省略したのはよかったと思う。今後は最終審査での委員会意見が事業にどう反映されたかを評価していくことが、より重要になってくると思われる。
- ・継続事業については、提案内容や審査時の委員会意見をどれだけ実行・反映したのかを事業評価の判断材料に加え、より厳正に審査していくべきだと思う。それとは別に、企画提案型協働事業の実施団体は他のNPOに比べ優遇されていないかという疑問を感じている。
→提案内容のチェックはもちろん、委員会の参考意見を事業に反映したかどうかについても確認する意義はある。反映しなかったのであれば、少なくともその理由は確認しておくべきであろう。
(粉川委員長)
- ・個別の委員会参考意見に対する結果の報告を事後評価シートに加えてはどうか。特に継続事業については、地域課題に対する解決が図られているかを確認していく必要性を感じる。
- ・できたこととできなかったことの具体的な報告が必要で、そのためには提案段階から具体的な目標

設定を提案団体が提示すべきである。

- ・提案段階からアウトプット、アウトカム評価を提案団体が提示すれば、解決すべき課題も明確化する。
 - 事業を長く実施しているとどうしても惰性的になる面は否めず、事業評価を改善する必要があるが出てくる。そもそも事業にはロジックモデルが必要で、それには提案団体が1年ごとの目標と成果をアウトカム指標として設定し、必要経費もそれに合わせて変わっていくというのが本来あるべき姿である。ただ、これまでの提案の中にもそうした片鱗は認められるので、成果の測定を可視化した提案書の様式にするだけでも、ある程度の改善は可能と思われる。また、本委員会は市民の代表という位置付けであることを考えれば、団体が委員会意見に対し結果を説明する責任はある。アイデア審査後、協議の場で委員会意見をどう検討したのかについても、最終審査前に情報提供していただきたいと思う。(粉川委員長)
- ・協働の意義や必要性の是非も含め、事業成果の客観的評価は確かに必要である。しかし一方で、市民ニーズの充足や地域課題の解決のため市民が積極的に参加する機会として企画提案型協働事業は優れたスキームであり、この取り組みを推進するには団体の意欲を高めていくことがなにより重要である。そのバランスをどう考えていくかがポイントではないか。
 - 的確な評価と協働の価値のバランスをどうとっていくのかを考慮する必要がある。市民の思いや立場を汲み取ることも重要である。(粉川委員長)
- ・他にも類似の事業を行っているところがあり、そうした事業との棲み分けがわかりにくい面がある。NPOの能力評価を含め、どのように考えていけばいいのか迷うことがある。
- ・今回指定テーマ型に応募した立場として発言させていただくと、市民と市のニーズをまだ理解しきれていない面がある。団体の意欲を高めるため、指定テーマのメニューを増やしていくことも重要だと思う。
- ・費用対効果の観点から言うと、「道作古墳群歴史広場の維持管理事業」に予算を100万円もかけて実施する必要があるのか疑問に感じる。資料2を見ると、あれだけの知名度がある吉高の大桜には5万円しかかかっていない。
 - 企画提案型協働事業の実施団体とその他の団体との公平性に関するご意見が出ているが、企画提案型協働事業は要件を満たす市内の団体であればだれでも提案し、審査を受けることができる仕組みとなっており、特定の団体が優遇されることはない。また、資料2については次の議題で説明するが、市がNPO・ボランティアと連携して行っている取り組みの一覧である。このリストに記載のある事業の大部分は広い意味での協働であり、企画提案型協働事業と同じレベルで実施されている協働事業は実際にはほとんどない。(事務局)
- ・個々の協働事業における市民へのPRは、以前よりは改善していると思う。道作古墳群は最初から知名度があるわけではないので、PRはこれからではないか。しかし、先日ある課で課題がないから会議は開催しないと言われたことがあった。市の協働に対する意識はいまだ低いと感じた。
- ・審査時に継続事業はいつまで続くのかと思った。アクションプランのように、目標に対する事業成果を達成度で示していくような報告が必要ではないか。
- ・指定テーマ型で募集された「市民向けごみ分別冊子の作成」に市民から応募がなかったのは残念だった。市民側の意識を高めていくことも必要であり、そのためには市民活動支援センターの役割が重要である。

→企画提案型協働事業は機会が広く開かれている点で団体への公平性を担保しており、また多様な市民の意見を反映するひとつの手法として機能していると言える。ただし、議会が市政を決定する本来のシステムからすると特殊な制度であることは確かである。それだけに、継続事業の提案についてもきちんと精査していくことが求められる。印西市にはまだ財政的な余裕があることが、提案数が増えない背景としてあるのかもしれないが、将来的には不透明であり、事業の棚おろしのためにも、制度自体は残しておいた方がよいと思われる。(粉川委員長)

- ・「アイデアのたまご」はよい仕掛けだと思うので、この枠組みを使って企画提案型協働事業の活性化事業に取り組んでもよいのではないかと参考までに、現在の「アイデアのたまご」登録数について伺いたい。また、アイデア審査時には、提案事業との類似事業を参考までに教えていただきたい。(粉川委員長)

→今年度の登録数は1件である。(事務局)

- ・「アイデアのたまご」を市広報誌でPRしてはどうか。
- ・企画提案型協働事業は実施が採択の次年度になるため、団体側からするとモチベーションの維持が難しい。予算を確保しておいて、審査年度に実施できるような仕組みにはできないのか。
- ・他市の事例だが、NPOとして赤字覚悟で事業を始め、市の支援を頼んだところ、担当者は前向きだったものの最終的に予算獲得まで2年かかった。
→補助金制度であれば年度内実施は可能である。団体の自主事業であれば公益信託印西市まちづくりファンドの活用が考えられる。補助金交付型で協働事業を行っている自治体では年度内に実施しているところが多いが、事業費は予算の範囲内となるため枠内での配分となる。(事務局)
- ・いずれにしても、審査会を通す形で行うべきである。
- ・「アイデアのたまご」を、事業効果を測定するモデル事業として使うのもひとつの手ではないか。

《議長進行》

資料3で示された審査方法の見直しについて意見を求めた。

《委員意見》

- ・各委員の意見を記入したふせんは、少なくとも内容別に分ける必要はあるのではないかと。
→ふせんをまとめる作業を簡素化した方がよいと事務局に示唆したのは委員長の私である。その理由は、次に委員長や委員長職務代理者になる方がこうしたワークショップ形式に慣れた方に限定されることを懸念したからである。今後は、委員長以外でこうした作業に慣れている委員に担当していただくのもよいかもしれない。(粉川委員長)
- ・事前の委員会で各委員の意見をまとめてしまう方法もある。審査結果の通知に記載することを考えても、委員の意見を内容別に分けることは必要ではないか。
- ・休憩時間が長くなるということであれば、休憩中に印西をPRする動画を流してはどうか。

《検討結果》

- ・今回の意見を参考に、審査方法と事後評価シートの改善案を事務局で検討し、次回の委員会に諮る。

議題(2) その他

《事務局説明》

資料2を基に、今年度に市がNPO・ボランティアと連携して行っている事業について報告した。併せて、市HP記事を基に、平成25年度に企画提案型協働事業で実施された事業の継続事業として12月に行われた「武西の里山クリーン大作戦」について紹介した。

《議長進行》

各委員の意見を求めた。

《委員意見》

- ・市では、多くの町内会や地域団体が行う公園美化活動にそれぞれ11万円の予算をつけて支援している。企画提案型協働事業では300万以上の予算をつけてひとつのNPOが竹袋調整池の周辺を維持管理しているのと比べ、公平な扱いとは言えないような印象を受ける。公園美化活動にももう少し予算を回してもよいのではないか。

→公園美化活動支援事業と「竹袋調整池周辺の維持管理事業」は異なる種類の事業であり、単純に比較することは適当ではない。市内の公園は入札で選定された造園業者に年間の維持管理を委託して行っている。町内会等の公園美化活動は、それとは別にゴミ拾いや清掃活動を年数回ボランティアで行う活動であり、ゴミゼロ運動に似た活動である。また、予算11万円というのは、20以上の団体に対し消耗品を提供するために市がもっている予算の全体で、個々の団体の活動につけている金額ではない。「竹袋調整池周辺の維持管理事業」では年間のすべての維持管理をひとつのNPOで請け負っており、ボランティアな公園美化活動と単純に比べることはできない。議題1で取り上げられた「道作古墳群歴史広場の維持管理事業」と吉高の大桜の例についても同様である。(事務局)

- ・竹袋調整池の周辺は公園ではないので公園事業ではない。むしろ、他の調整池周辺の管理状況と合わせて検討した方がよい。企画提案型協働事業以外の管理方法も模索していくべきだろう。
- いずれにしても、企画提案型協働事業の市民提案型は期限が設けられたので、2年後には他の手法に切り替わることになる。来年度から、提案事業と、類似している市内事業を審査段階で比較検討するため、類似事業の情報提供を事務局に求めたい。(粉川委員長)

《検討結果》

- ・今回の意見を参考に、来年度の企画提案型協働事業実施について事務局で検討を進める。

3 その他(事務連絡)

- ・現委員の任期が5月で満了となる。
- ・次回の委員会を4月に実施したい。日程調整の結果、4月21日(金)午前10時開始に実施することになった。

以上